令和4年度 学校経営の改革方針

令和4年4月1日

	令和4年4月1日
記述項目	記述内容
1 めざす	すべての子どもに居場所とやる気を保障できる学校
学校像	・知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもを
	育成する学校
	・人権を大切にした安心して学べる学校
	・児童・教職員・保護者・地域がひとつになった学校
	・教職員自らも成長し続ける学校
2 経営方針	1 子どもたちの「生きる力」を育む教育課程を創造する。
	2 家庭や地域と共にある学校づくりを推進する。
	3 教育に関わる環境や条件を学校運営協議会, まちづくり協議会と
	連携して整備を進める。
3 達成方策	(1) 地域を舞台に各教科との連携を密にした主体的・協働的な学習
	の推進
	・教科横断を意識したカリキュラム・マネジメントの積極的推進
	・学びのツールの習得・活用
	(英語教育・ICT教育・学校図書館教育)
	(2) 教科担任制(英語, 5,6年生での入替授業等)の実施
	(3) 全国学調やみえスタディ・チェックの結果を踏まえた授業改善
	(4) 児童の実態を基に各教科・道徳教育の関連を踏まえた人権教育
	の推進
	(5) 体力テストや発育測定のデータをもとに、家庭・地域・関係機関
	と連携した体力向上の推進
	(6)「鈴鹿市不登校対策初期対応マニュアル」の活用
	(7) まちづくり協議会と連携した学校運営協議会の推進
	(8) 鈴鹿大学と連携した長欠児童への対応, SLSとの情報共有
	(9) 会議・行事の精選等、総勤務時間の縮減に向けた取組
	① 1 人当たりの月平均時間外労働 25 時間以下(19 時間)
	年 360 時間を超える時間外労働者数 0人 (0人)
	月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 (42人)
	② 1 人当たりの年間休暇取得日数 22 日以上 (27 日)
	③ 設定した日の定時に退校できた職員の割合 75%以上 (77.9%)
	④ 放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 70%以上
	(74. 5%)
	()内は R3 年度実績

※ SLS・・・様々な理由で登校しづらい児童の登校を促すために教育委員会が配置した支援員。家庭訪問や登校後の見守り等をしてもらっている。